



世界協学。

留学生50%。外国人教員50%。
世界50カ国から集まった学生たちとともに学ぶ。

APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University

立命館アジア太平洋大学

西暦2000年開学予定（1998年9月設置認可申請）

西暦2000年に開学するまったく新しい大学APU。 そこから世界を舞台に活躍する人材が巣立っていきます。

21世紀の国際社会の姿を考える上で、最も重要なキーワード。それが「アジア太平洋」です。広大な太平洋によって結ばれたアジアーオセアニアー北米ー南米の国々・地域をひとつの連関性の中でとらえる「アジア太平洋」という視点から、よりよい地球社会を創造していくための方法を探っていく。これが21世紀の私たちの課題なのです。

そんな「アジア太平洋の時代」の幕開けにふさわしく、西暦2000年に開学を予定しているのが立命館アジア太平洋大学（APU）です。APUでは、従来の大学教育の常識を破る試みが、あらゆる形で行われます。学生の半数が留学生、教員も50%が外国人。世界から集まった学生たちが、英語・日本語・アジア太平洋地域の諸言語を使って自由にコミュニケーションをはかりながら、新しい時代の「アジア太平洋」の経済・政治・社会・文化のあり方を探っていく。そして、APUから世界各国の大学・研究機関・国際機関・NGOなどに留学し、その知識と能力と経験にさらにみがきをかけ、国際社会に巣立っていく…。APUを卒業するみなさんの未来には、まさしく無限の可能性が開けているといえます。

APUは、新しい時代の新しい大学にふさわしい知的好奇心と行動力にあふれるみなさんをお待ちしています。



いまだかつてない大学教育が始まる。

多言語、多文化の教育環境。 新世紀の国際教育を目指す世界協学システム。

APUは、世界約50カ国からの留学生が半数を占めるとともに、教員の50%が外国人という「マルチカルチュラル(多文化)・コミュニティ」です。

世界から集まった学生が、世界から集まった教員のもとで、ともに多言語・多文化の環境のもとで生活しながら学ぶ。

これらをAPUのような形で実現する大学は、国内ではかつてありません。こうした教育環境は、ただ海外の大学に留学するだけではなかなか得られません。APUはこのような環境のもとで優れた国際教育を提供できます。

APUの開学とともにスタートする新しい理想の大学教育。私たちは、あなたの入学を万全の体制でお待ちしています。

3言語以上の習得も可能な…

多言語教育

●英語と日本語の2言語教育システム

APUは、英語と日本語により授業を行う「バイリンガル大学」です。そのため、英語による授業を受け、英語による討論が可能な英語能力を2年次終了時まで確実に修得できるカリキュラムと環境を用意しています。また、低学年次に開かれる基礎教育科目は一つの科目を英語と日本語の両方で開講します。これにより、言語能力の修得と並行して、日本語が英語いづれが得意な言語で授業を受けることができます。

●アジア太平洋地域の言語も学ぶ

APUでは英語、日本語以外に、中国語、韓国語、マレー語・インドネシア語、スペイン語、タイ語、ベトナム語が学べます。アジア太平洋地域でこれらの言語を公用語、準公用語としている国は約60カ国・地域を数えます。これら各言語を教える教員も、それぞれの言語を外国人に対して教える高度な能力を備えたスタッフで行います。

さらに、これらの言語を母語とする留学生とキャンパスでふれあう機会も多く、より実践的に言語能力を高めることができます。

●教員の半数は外国人教員

こうした多言語教育を全面的に展開するAPUは、教員構成でも国際性が豊かで、教員の半数が外国人です。これら外国人教員の講義を通じて、また日常生活でのふれあいを通じて、みなさんは言語能力はもちろん、異文化理解の面でも大きな収穫を得ることになるでしょう。



多文化の環境をフル活用する…

協調学習システム

●ピア・システム

学生たちが言語や文化の違いを乗り越えてコミュニケーションを深め、生き生きと学ぶことがAPUの魅力です。この魅力を最大限に生かしたものがピア・システムです。ピア・システムとは、言語の異なる学生を4人程度の小グループに編成し、レポート作成やプレゼンテーションの準備、言語の教え合いなど、お互いがお互いを学習上のパートナーとして学び合い、教え合う学習システムを意味します。

●異文化理解教育

APUはキャンパス自体が多文化環境にあります。そこでのキャンパスライフ自体が異文化体験です。さらにAPUでは、異文化を「知識・理論」と直接的な「交流・ふれあい」の両方から理解します。知識面からの理解として、カリキュラムに「アジア太平洋地域理解科目」をおき、アジア太平洋地域の特徴を「多様性」と「発展」の視点から学びます。直接的な交流の面からの理解として、アシスタントシステムや課外活動、イベントを通じて生のアジア太平洋の文化・価値観を体験的に学ぶことができます。

APUから広がる…

世界がまるごとキャンパス

●海外の大学で学ぶ

世界各国の協力・協定大学に留学できます。夏休みや春休みを活用した言語研修や海外の大学の専門学習を行う半年間あるいは1年間の留学など、目的に応じた多様なプログラムを用意します。

●立命館大学で学ぶ

APUと同一法人のもとに運営される立命館大学に設置されている各学部(法、経済、経営、産業社会、国際関係、政策科学、文、理工)との単位互換などが可能です。

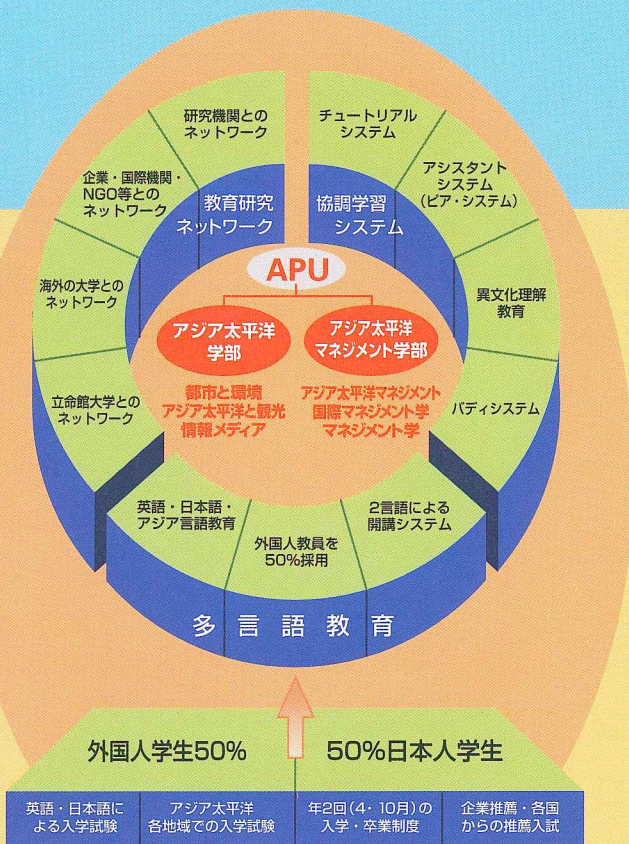
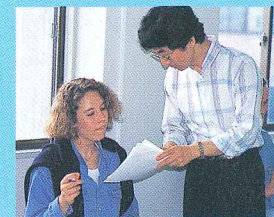
●企業、自治体、国際機関、NGO/NPOなどで学ぶ

APUは世界の様々な人たちと一緒に学習することを重視しています。またAPUは、実社会での経験を学習活動の一環として重視します。そのため、企業、自治体、国際機関、NGO(非政府組織)、NPO(非営利団体)などの協力を得ます。

●世界に向かって発信する

APUでの学習は、学んだ成果を世界に向かって発信することを目標としています。それは、知識を覚えるのではなく、自分の言葉で理解し、問題を発見し、社会的な評価に耐える政策提起能力を身につけるということです。

またAPUで学ぶみなさんは、インターネットを駆使して世界の学生や研究者と交信し、意見を交換するなかで、高度な情報発信能力をも身につけることができます。





理想の大学教育のための、最高のキャンパスとバックアップ体制。

キャンパスでの学びの中心となる「教室棟」は、遠隔講義対応の教室や1クラス20名の少人数教室を中心に、最大規模でも300名の教室で構成。「コンピューター&言語教室」や教員の個人研究室も設置されます。また、AVラウンジやマルチメディアスペース、本格的なスタジオを備えたメディアラボなどがある「総合情報センター」も建設されます。

そのほか、食堂やアミューズメント・スペースがある「学生厚生施設」や、学生と研究者が共同研究を行う場もある「研究棟」、730名を収容でき、高品質の装置を備え、様々なパフォーマンスに対応できる「国際文化ホール」、国際試合も可能なアリーナがある「体育館」などなど、世界の若者が集うキャンパスにふさわしい充実した施設が次々に完成します。

キャンパスの立地

APUのキャンパスは、別府湾を一望する緑豊かな別府市・十文字原に建設されます。敷地面積は41.6ヘクタール、東京ドーム10個分の広さを誇ります。大分県は独創的な「一村一品運動」で知られ、2002年のサッカー・ワールドカップ開催地にも決定しています。なかでも別府市は大分県の国際化をリードする国際観光温泉文化都市として注目されています。

君もAPUメイトに入りませんか。

開学まで2年。APU開設事務局では、国内外のみなさんにさまざまなインフォメーションを提供するために、APUメイト企画を進めています。そこでは情報誌やCD-ROMの発行、「アジア太平洋論文・作品大賞（主催：立命館大学）」、「立命館APEC」の開催などなど、楽しい計画がいっぱいです。また、APUに関する情報だけでなく、世界中の仲間と文通したり、インターネットでコミュニケーションしたり、あるいは実際に出会ったりという機会も増やしたいと考えています。ぜひあなたも、APUメイトに。

※入会資格、会費などは一切ありません。

●お問合せ先●

〒603-8577 京都市北区等持院北町5-6-1
立命館アジア太平洋大学開設事務局

TEL:(075)-465-7860 FAX:(075)-465-8371

E-mail:ml-info-apu@ml.ritsumei.ac.jp

インターネット:<http://www.ritsumei.ac.jp/kic/a31/>